

フィールドワークをこつこつと 教室や実験室では学べない貴重な経験を

現場で学ぶ 生きた社会学

世の中の出来事、全てに首を突っ込んでみよう...と思えるほど、地域システムコースの研究・活動は多岐多彩です。

地域貢献やボランティア、街づくり、街おこし、商店街の活性化、NPO法人、都市防災、ダム問題、選挙の解析、等々、社会の事象現象のあらゆるものが研究の材料となります。

地域システムコースには「地域情報サブコース」と「地域社会サブコース」という二つのサブコースがあります。

地域情報サブコースは、地理学・文化人類学・地域経済学などの学問分野を足がかりとし、フィールドワーク・資料調査等による情報収集や、社会統計分析・地理情報システム(GIS)を用いたデータ解析技法の修得を通じて、トータルな調査・分析能力を身につけた地域アナリストの

養成を目指しています。

地域社会サブコースは、社会学・教育学・経営学を中心に学びながら、社会調査やケーススタディなどの実践的なプログラムを通じ、柔軟な企画・調整能力を有する地域コーディネーターの養成を目指します。

細木さんは「地域社会サブコース」で、矢部拓也先生のもとで現在、卒業論文に取り組んでいます。

矢部先生の専門は都市社会学。先生は新町川を守る会、インターネット市民塾、第十堰、中洲市場の活性化、日本最大の中州である善入寺島の地域ブランド立ち上げ、パラルシヨップ、上勝町の彩(いろどり)事業などありとあらゆるところに神出鬼没。

休日には学生たちと現場に出かけ、その中からそれぞれが興味を持ったことについて研究、レポートに提出させます。

現場で探す生きた 卒論テーマ

細木さんが卒論に選んだテーマは、専業主婦の子育てと支援について。

きっかけは、NPO法人「子育て支援ネットワークとくしま」に徳島市が、子育て支援対策の充実の二環として商店街の空き店舗を活用して開設した「商店街 子育てほっとスペースすきづ」の見学でした。

ここで活動するスタッフにスポットをあて、主婦たちの生きがいや目標などを見つめていきます。学生という立場から実感できない部分もありますが、取材をとおしてゼミ仲間や先生のアドバイスを受けながら内容を模索中です。

「動く・体験することで、教科書にはない多くのことが学べます。個人のやりたいことを自由にさせてくれますが、それに対しての評価や、自分のわからないことは他の先生を紹介してくれたりフォローもきちんと

してくれます。すごく楽しくてやりがいのあるゼミです」

ゼミではもう一人卒論に取り組んでもおり、原田越代さんは、全国的にも地域おこし事業の大成功例として知られている上勝町の彩(いろどり)事業を、木村佐和さんは都市と農村の交流をテーマとしたグリーンツーリズムを、それぞれ題材として選びました。

このように学生それぞれが、自分の興味ややりたいことを自主的に選択して、人間や社会を学んでいけるのが「地域社会サブコース」です。

フレンドリーな 雰囲気の中で

地域サブコースのゼミは他に、樋口直人先生と櫻田美雄先生の二人の教員が担当しています。

「とても和気藹々としたゼミで、見学をかねてお花見をしたり、ピクニックのようにみんなで出かけること

も楽しいのですが、先生のお宅にうかがってホームパーティーをしたりもします。特に樋口先生の手料理はプロ並みですよ。それにうちのゼミでは先生って言うてはいけないことになってるんです」

細木さんたちは「矢部さん」と先生を親しい方たちのように呼びます。そんな雰囲気は調査室にも。ソファやそれぞれが持ち寄ったキャラクターグッズなどが置かれ、まるで自分の部屋にいるようなほっとするスペースで、時には論議し、また意見や情報交換が行われます。

このように地域社会サブコースでは、フィールドワークをもとに学生が研究課題を見だしそれに取り組みしていくという、自由かつ実践的な研究をみなさん生き生きと行っています。



Aki Hosogi



細木さんは矢部拓也先生のもと卒業論文に取り組んでいます。